5　児童生徒質問調査結果と「学力のレベル」

(1)授業に関すること

①調査結果から

○　「学力のレベル」が高い児童生徒は、学習課題を把握したり、話合いや交流を通して自分の考えをもったり、学習したことと既習事項を関連付けたりする傾向が見られた。このことから「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、学力向上に寄与していることがうかがえる。

○　特に、質問「授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがありましたか」と「学力のレベル」の高さに関係が見られる。

②指導に当たって

◎　全ての子どもに学びを自分事として捉えさせるため、教材との出合わせ方を工夫し、子どもの問いや思い・願いを引き出したり、学習課題を理解しているかを確かめたりするなど、自ら学び出そうとする導入にすることが大切である。

◎　子どもが自己調整しながら個別最適な学びを進めたり、多様な他者と協働的な学びを進めたりしながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を展開することが大切である。

◎　「まとめ・振り返り」において、「何が分かり、何ができるようになったのか、どのように学習したか」を、子どもが自覚できる終末にする。そして、「授業でどのようなところが成長したと思うか」「次は、どのようなことに取り組みたいか」を子ども自ら考え、次の学びにつなげられるようにすることが大切である。

【「ふくしまの『授業スタンダード』」より】

- 「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にするために、「問い」や「思い・願い」を基に児童生徒の気付きや発言などをつないで焦点化し、学習課題を設定しましょう。
- 思いや考えを広げ深めることができるようにするために、児童生徒の考えを基に話合いをコーディネートし、ねらいに迫りましょう。
- 児童生徒の言葉で、学習課題に対応したまとめを表現できるようにします。また、板書やノートなどを基に「どのように学習してきたか」を子どもが振り返ることができるようにしましょう。

【「『学びの変革』授業デザイン」より】

「学び出す」･･･すべての子どもが、結果の見通しや、解決方法の見通しをもち、自ら動き出そうとする導入にします。

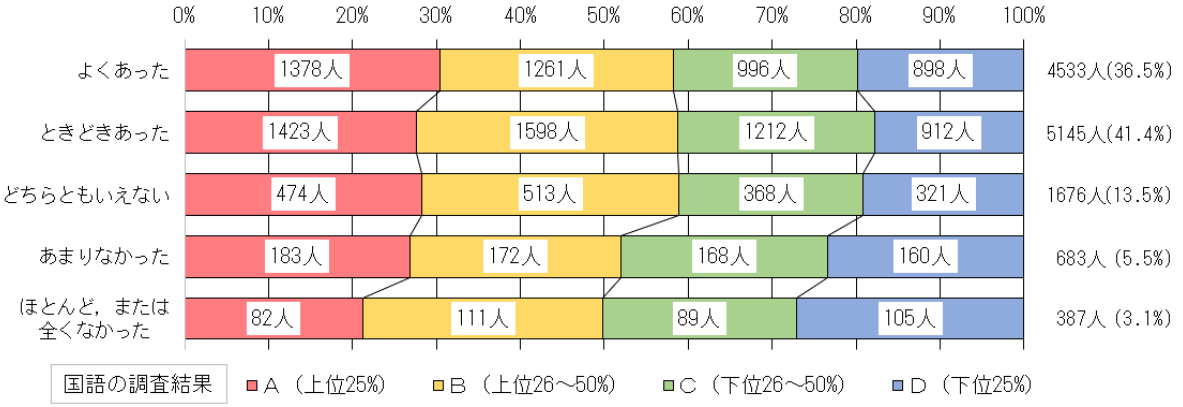
「学び合う」･･･すべての子どもが、友達の話に耳を傾け、自分の考えを確かにしたり、新たな考えに気付いたり、磨き上げたりする展開にします。

「学び取る」･･･すべての子どもが、今日の授業で「自分は何が分かり、何ができるようになったのか」を実感できる終末にします。

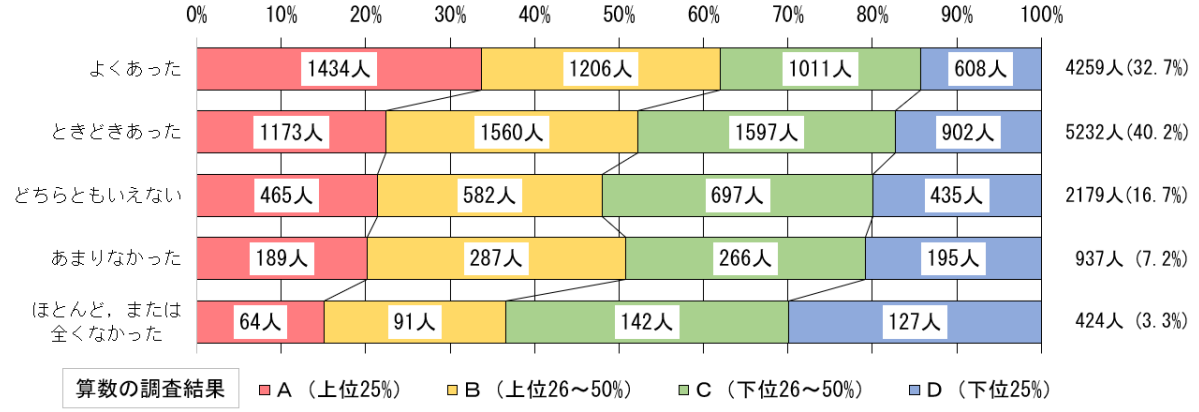
＜児童生徒質問調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から＞

縦軸：質問『授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだことがありましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４・小６・中２）『算数・数学の調査結果』（小５・中１）

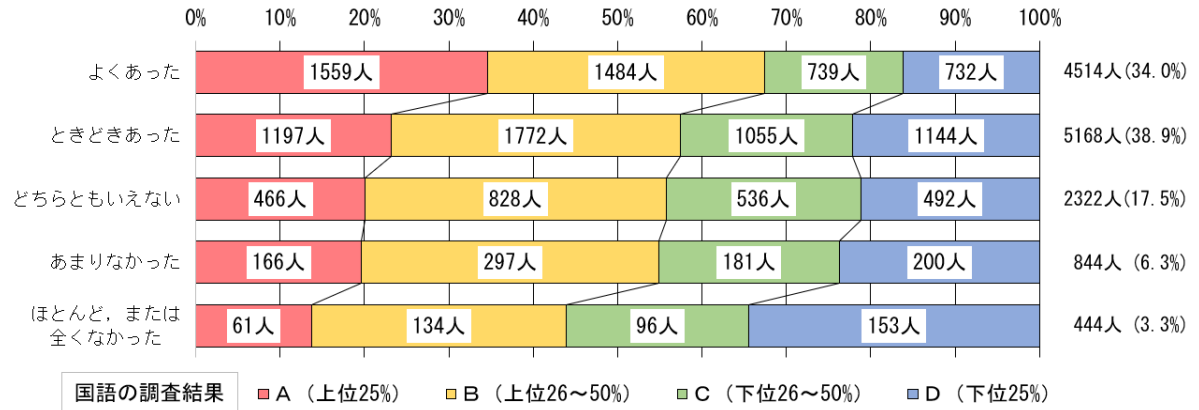
小学校４年生　国語



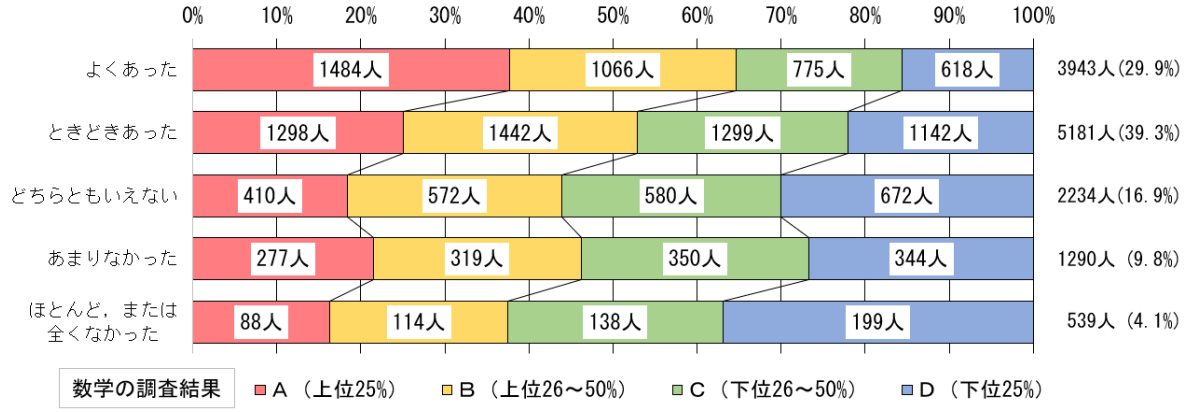
小学校５年生　算数



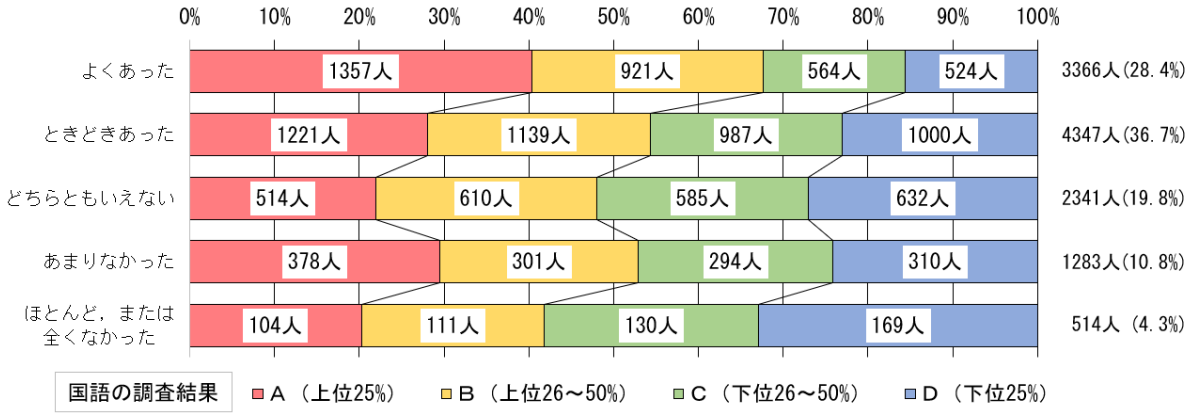
小学校６年生　国語



中学校１年生　数学



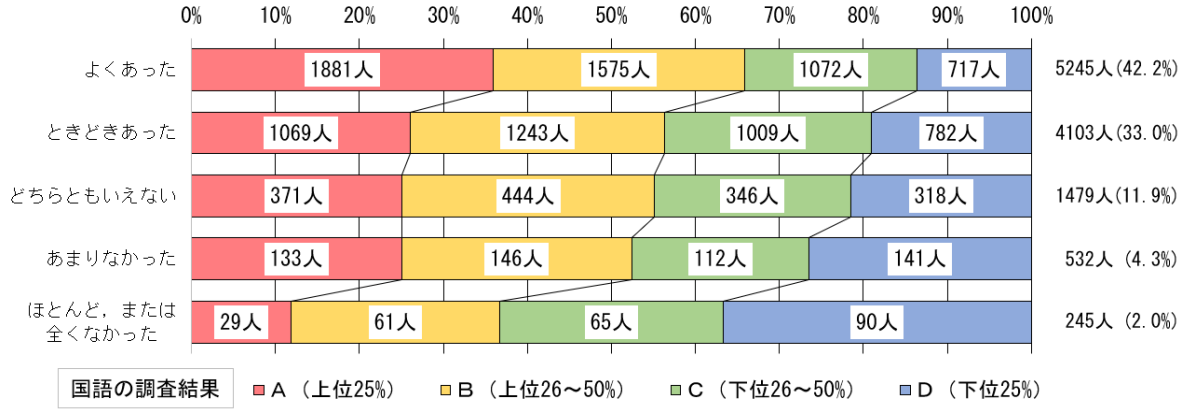
中学校２年生　国語



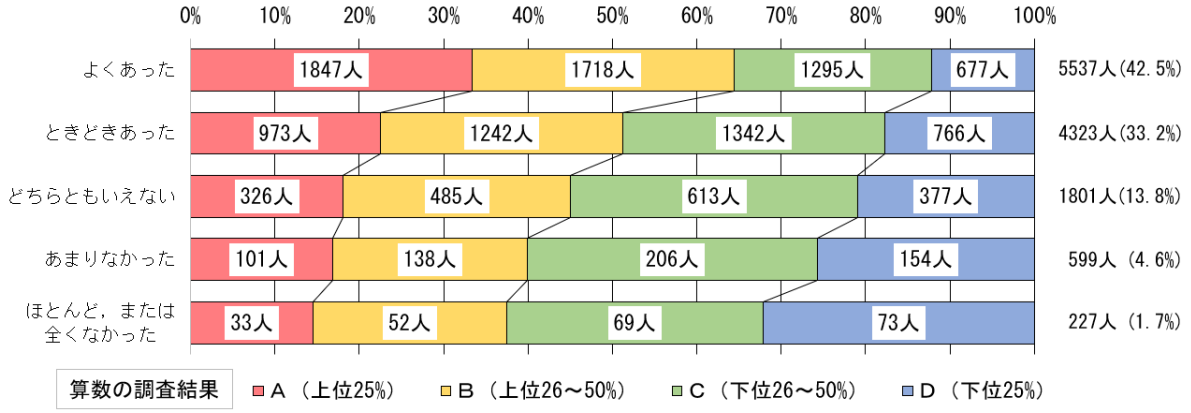
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかり持てるようになったことがありましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４・小６・中２）『算数・数学の調査結果』（小５・中１）

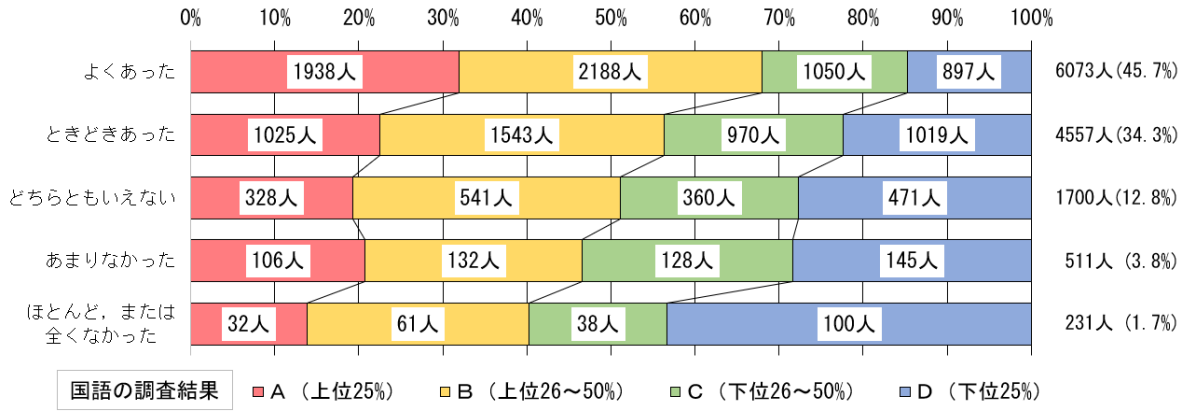
小学校４年生　国語



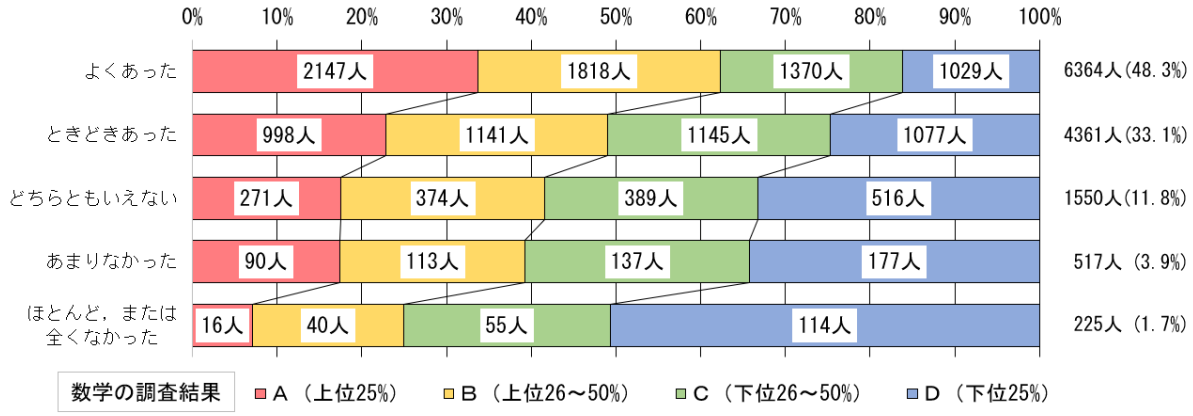
小学校５年生　算数



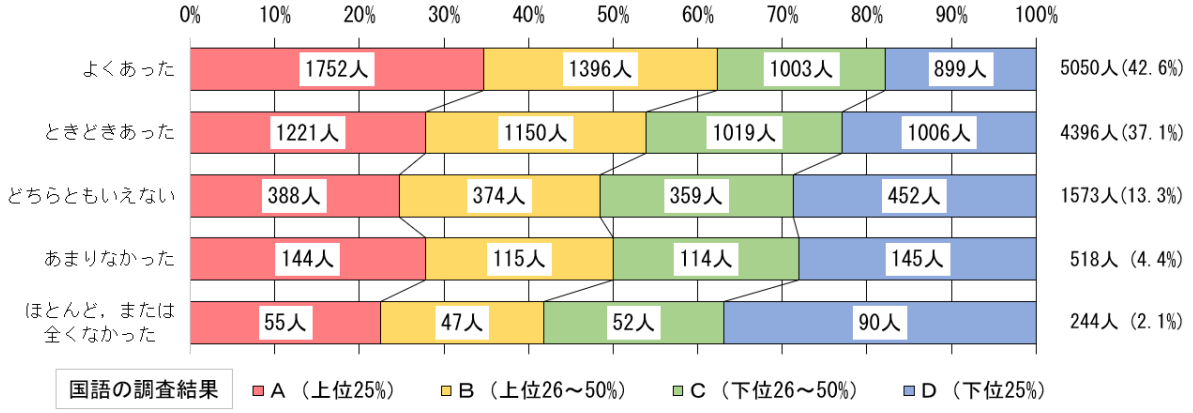
小学校６年生　国語



中学校１年生　数学



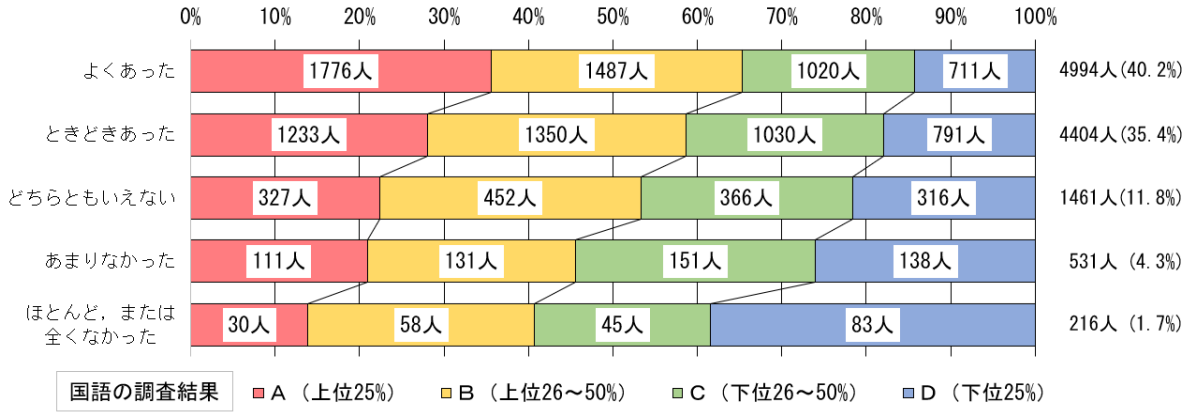
中学校２年生　国語



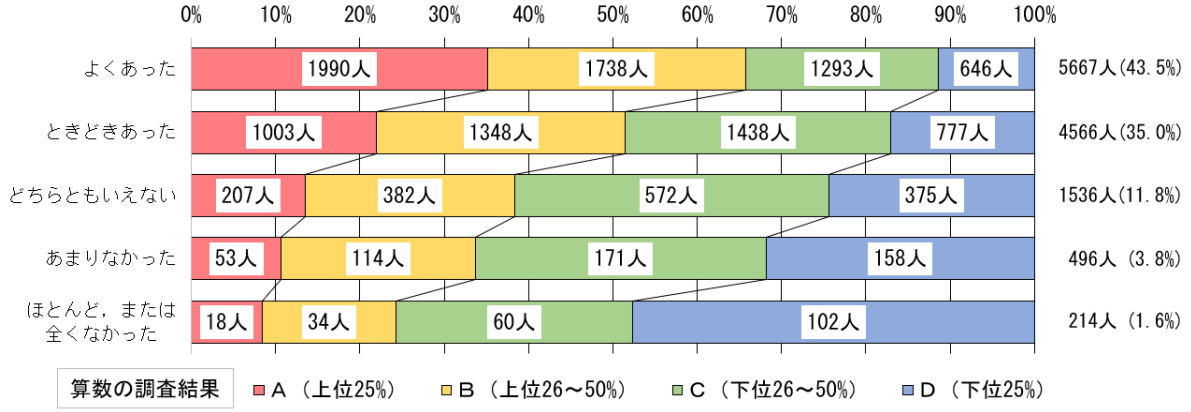
※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。

縦軸：質問『授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがありましたか』
横軸：『国語の調査結果』（小４・小６・中２）『算数・数学の調査結果』（小５・中１）

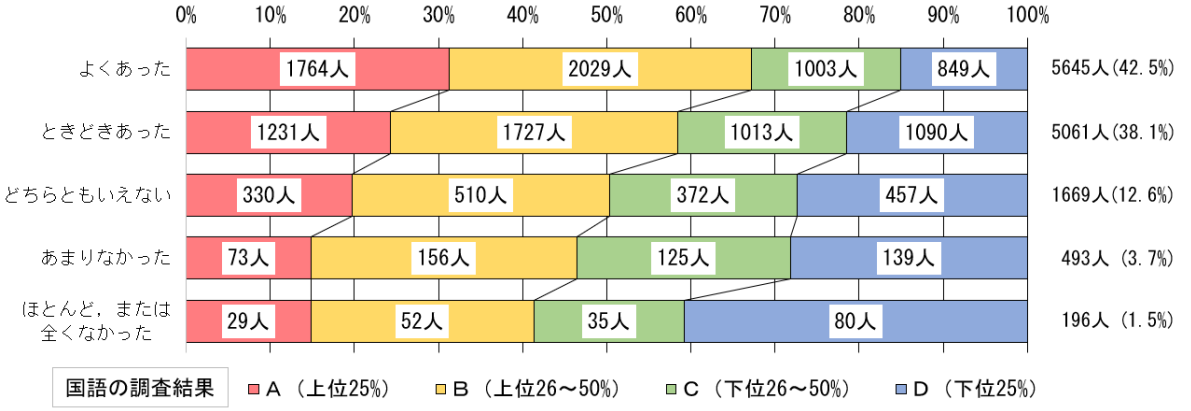
小学校４年生　国語



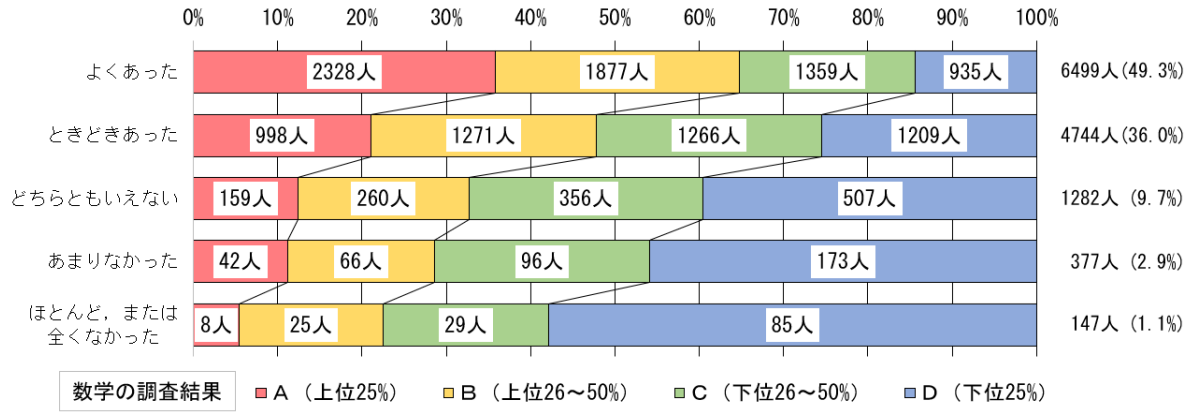
小学校５年生　算数



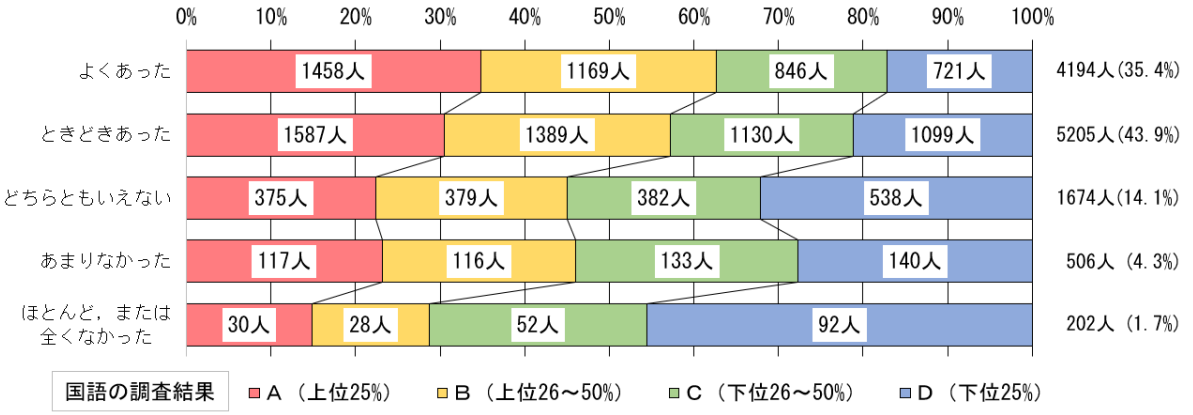
小学校６年生　国語



中学校１年生　数学



中学校２年生　国語



※　学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。